



ダイキン ルームエアコン

据 付 説 明 書




二次元バーコードは製造用コードです。

安全上のご注意

●据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
ここに示した注意事項は、次の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。


 警告	誤った据付けにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 注意	誤った据付けにより、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性があるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
---	--	---	--

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

 指示を守る	 アース線接続	 禁止
--	---	---

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

 警告	
<ul style="list-style-type: none"> ●据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 お客様自身で据え付けられ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。 ●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。 据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。 ●設置工事部品は、必ず付属品および指定の部品を使用する。 指定部品を使用しないと、ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因になります。 ●据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。 強度不足や取付けが不完全な場合、ユニットの落下により、けがの原因になります。 ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると、火災や感電の原因になります。 ●据付工事は、必ず電源を切って行う。 電源を入れたまま電気部品に触れると感電の原因になります。 ●アース工事は確実に行う。 アース線は、ガス管や水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 アースが不完全な場合、感電や火災の原因になります。 ●漏電しゃ断器を必ず取り付ける。 漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電や火災の原因になります。 ●配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。 施工不備があると、発熱や感電、火災の原因になります。 ●室内外ユニット間および電源の配線は、所定の電線を使い確実に接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。 接続や固定が不完全な場合、発熱や感電、火災の原因になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーまたは右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。 カバーの取付けが不完全な場合、端子部の発熱や感電、火災の原因になります。 ●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない。 空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●指定冷媒(R410A)以外は使用しない。 機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。 ●ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。 冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 ●設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーターやコンロ、ストーブなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 ●配管・フレアナット・工具は指定冷媒(R410A)専用のものを使用する。 既存冷媒(R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。 ●可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。 ひび割れや感電、引火の原因になります。

 注意	
<ul style="list-style-type: none"> ●可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない。 万一ガスが漏れて、ユニットの周囲にたまると、発火の原因になります。 ●ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合は屋内に漏水し、家財などをぬらす原因になることがあります。 ●室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。 鋭利な板金によりけがの原因になることがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない。 けがの原因になることがあります。 ●フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。 フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。 ●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

据付場所の選定

●据付場所は、お客様の同意を得て決定してください。

室内ユニット

- 室内ユニット据付図**の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。
- 直射日光のあたらない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 機械油などの油の蒸気が発生しない所。
(室内ユニットの寿命が短くなる場合があります。)
- 冷(温)風が部屋全体に行きわたる所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。
(リモコンの受信距離が短くなる場合があります。)

室外ユニット

- 室外ユニット据付図**の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。
(降雪地では、雪でふさがれない所。)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのない所。

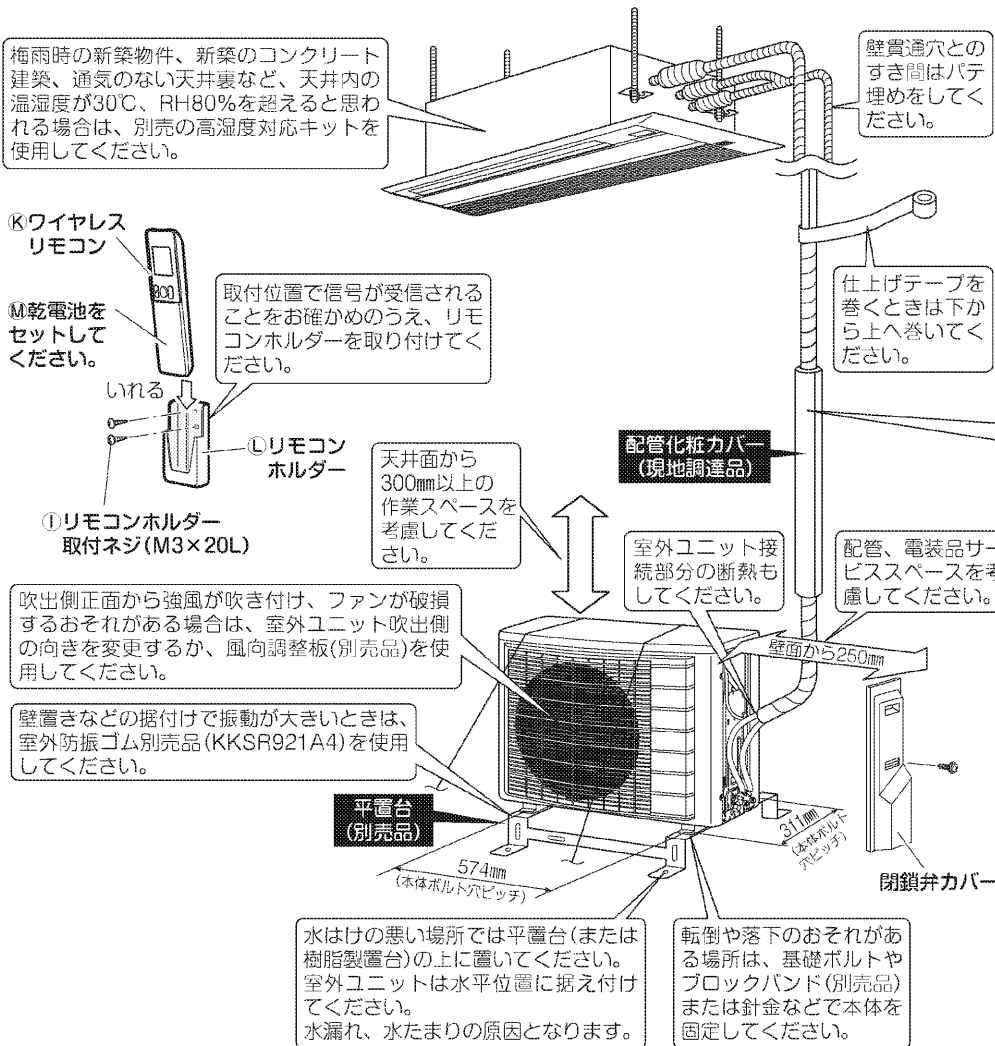
- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けない所。
(ファンが高速で逆回転し、破損するおそれがあるため。)
- 海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所では、室外ユニットの寿命が短くなる場合があります。
- 運転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。
(特に隣家との境界線では、環境基本法第16条の規定に基づき騒音に係る環境基準および都道府県の条例などを満足すること。)
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。

リモコン

- 部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させ、リモコンの信号を室内ユニットが受信できる位置に取り付けてください。

室内外ユニット据付図

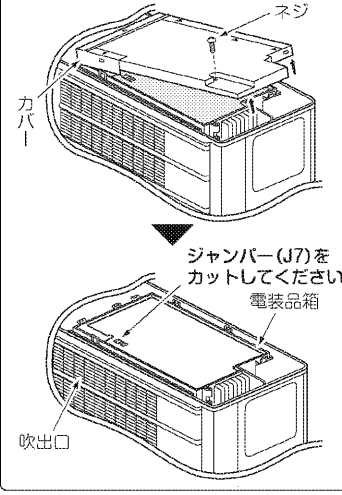
- 真空ポンプを使用しエアパージを行ってください。
- 移設をする場合は、必ずポンプダウンを行い、室外ユニットへ冷媒を回収してください。
- 室内ユニットは前後左右の傾きに注意してください。
- 本図はセパレート形(標準パネル仕様)を示しています。
- システムバック・マルチの場合**、配管長・高低差・据付寸法などはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合**、配管長・高低差・据付寸法などはBPユニットに付属の据付説明書に従ってください。



	最大許容長さ	最大許容高さ
2.8kW、3.6kWクラス	25m以内	15m以内
4.0kW、5.0kW、5.6kWクラス	30m以内	20m以内

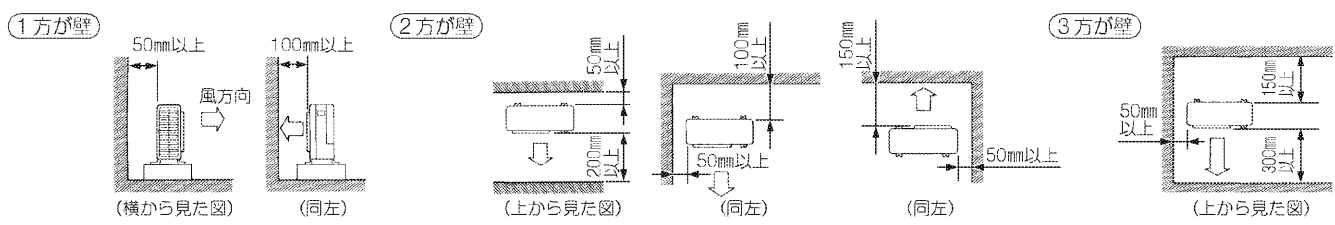
●連絡配管が15mを超える場合は冷媒追加充てんしてください。
配管1mあたりの充てん量: 20g/m
また、室外ユニットの電装品にあるジャンパー(J7)をカットしてください。

【ジャンパー(J7)の位置】
●電装品カバーの外しかた
△マーク5カ所のツメを外した後、図のように傾けて電装品カバーを取り外してください。

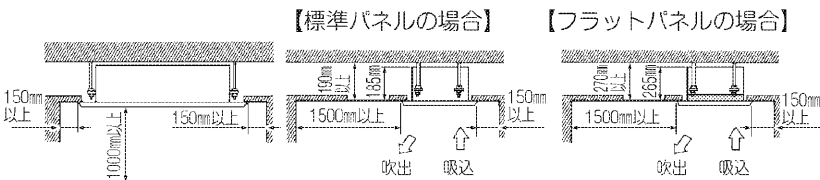


室外ユニットの据付所要スペース

- システムバック・マルチ、ワイドセレクトマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 室外ユニットの吸込口、および吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据え付けする場合は、下記パターンに従ってください。いずれの据付パターンでも、吹出側壁面高さは1.2m以下としてください。



室内ユニットの据付所要スペース











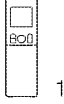

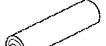
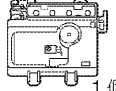




室外ユニット閉鎖弁カバーの取外し、取付けかた

- システムバック・マルチ、ワイドセレクトマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 取外しかた**
①閉鎖弁カバーのネジを外します。(1本)
②下方へスライドし、外します。
- 取付けかた**
①閉鎖弁カバーの上部を差し込み、取り付けます。
②ネジを締めます。(1本)

付 属 部 品

室内ユニット

㉞ ドレンホース  1本	㉟ ホースバンド  1個	㊱ ドレンホース用断熱材  1枚	㊲ 断熱筒  1本	㊳ 断熱テープ  2個	㊴ 据付用型紙 取付ネジ M5×12L  4本	㊵ 据付用型紙 取付ネジ M4×12L  2本	㊶ 座金  8個	㊷ リモコンホルダー取付ネジ M3×20L  2本
㊸ 座金固定材  (㊴据付用型紙と一体になっています。使用時は、切り離してご使用ください。) 4枚	㊹ ワイヤレスリモコン  1個	㊺ リモコンホルダー  1個	㊻ 乾電池単4  2本	㊼ 受光ユニット  1個	㊽ 室内温度センサー  1個	㊾ 型紙 (フラットパネル用支柱)  4枚	㊿ 保証書 (システムバックを除く) ㊽取扱説明書 ㊾据付説明書 ㊴据付用型紙 各1部	

マルチ、ワイドセレクトマルチ5.6kW機の場合

㊼異径管継手



1個

- 使いかたは、**異径管継手の接続方法**を参照してください。

室外ユニット

㊽ドレンソケット



1個

- **システムバック・マルチ、ワイドセレクトマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書を確認ください。

㊼受光ユニットと㊽室内温度センサーは、化粧パネルに取り付ける部品です。取付方法は化粧パネルに付属の据付説明書を参照してください。

現 地 調 達 部 材

現地調達部材

品 名	仕 様
ドレン配管 (硬質塩ビパイプ)	VP20(外径φ26mm) その他必要に応じてソケット、エルボなど
接 着 剤	塩ビ系接着剤
断 熱 材	配管断熱用、ドレン配管断熱用 それぞれ肉厚10mm以上の発泡ポリエチレン
内外連絡電線	VVFケーブル (φ1.6mm-3芯 いずれか φ2.0mm-3芯)
冷 媒 配 管	㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 室外ユニットの据付け を参照してください。
本体吊下げ用部材	㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 室内ユニットの据付け を参照してください。

別売品 セバレート形・マルチ形共通

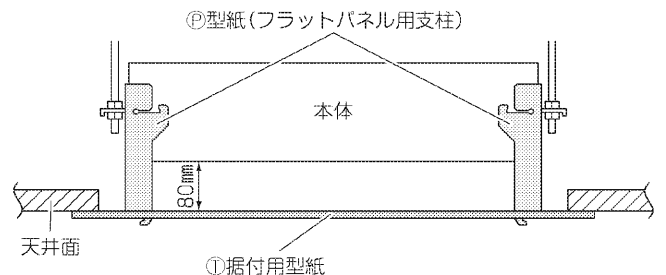
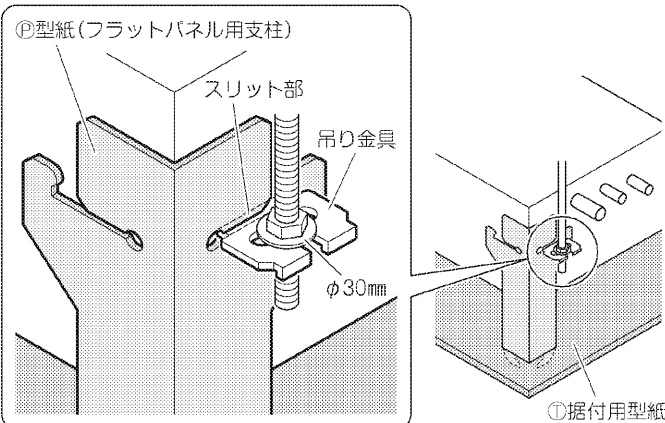
パネル色		フレッシュホワイト	ホワイト	ブラウン	木目
品名	化粧パネル	BC40J-WF	BC40J-W	BC40J-T	BC40J-M
	フラットパネル	BC40JF-WF	BC40JF-W	BC40JF-T	BC40JF-M

- 本室内ユニットには、別途化粧パネルが必要です。
- 上表のパネル色の中から、お客様が希望されるパネル色を選定され、それに該当する化粧パネルを用意してください。
- 化粧パネルの施工方法については化粧パネルに付属の据付説明書を参照してください。

フラットパネル組合せ時の型紙の使いかた

- フラットパネル組合せ時は天井裏へ80mmのかさ上げが必要です。下記の要領で、㊴据付用型紙を利用してください。

- ※ 吊り金具(4カ所)に付属の㊴型紙(フラットパネル用支柱)のスリット部を差し込み、フック部を㊴据付用型紙の角穴に各2カ所(8カ所)を引っかけます。

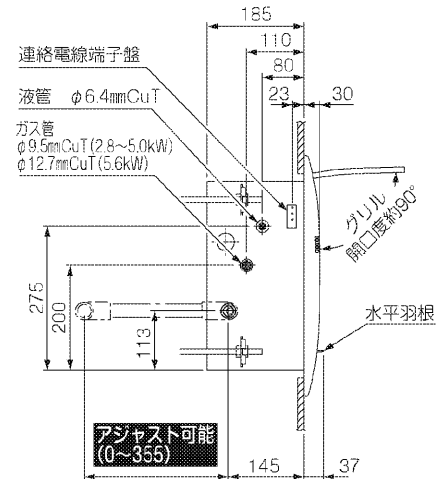
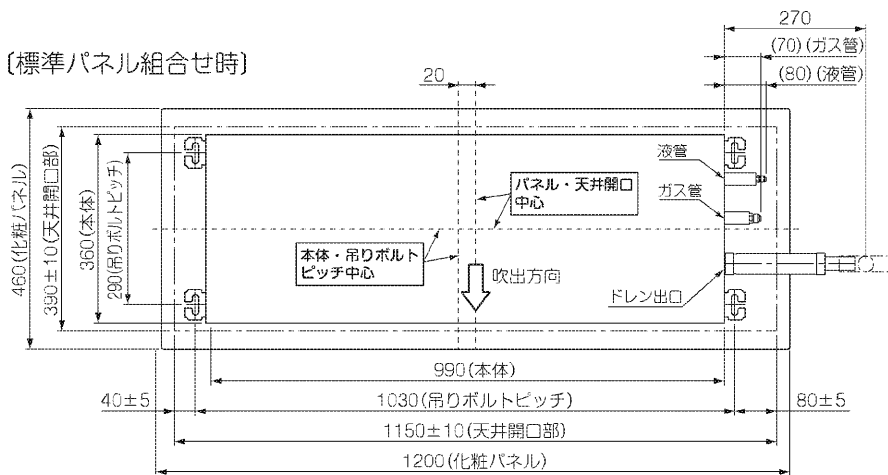


室内ユニットの据付け①

1 ユニット寸法と天井開口

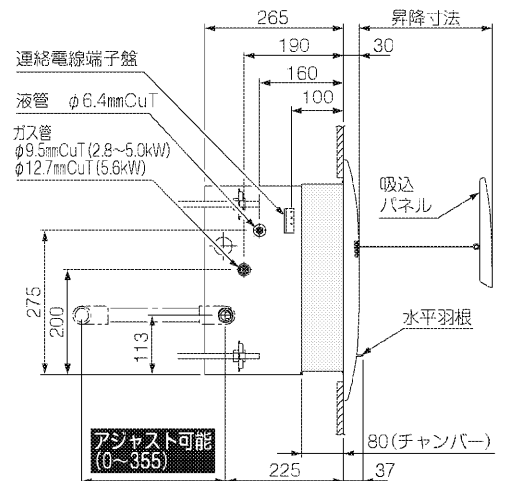
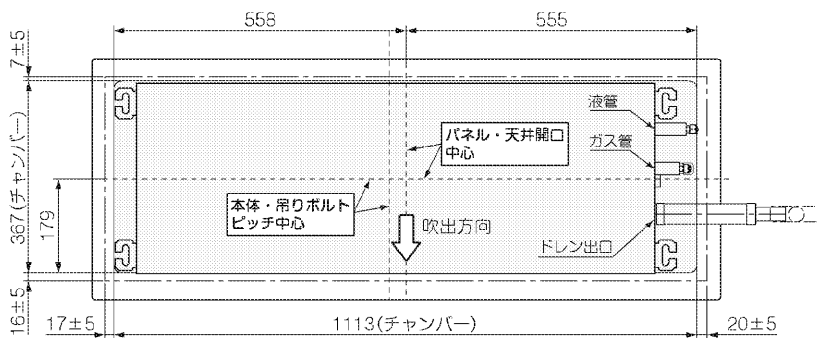
ユニット寸法と天井開口穴寸法 (単位: mm)

[標準パネル組合せ時]



[フラットパネル組合せ時]

記載寸法以外は、標準パネル組合せ時寸法と同様です。



天井高さ	昇降寸法
2.4mの場合	約1.2m
2.7mの場合	約1.5m

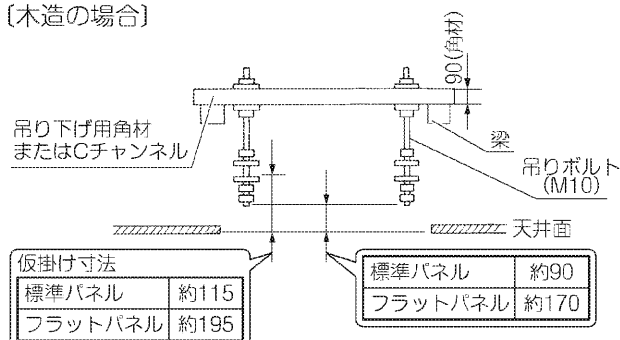
天井開口

- 据付場所選定後、配管引出し方向を決定し、据付用開口穴をあけてください。(室内ユニットの位置決め、天井開口寸法は、①据付用型紙を利用されると便利です。)
- 天井開口穴をあけたのち、天井の水平度を保ち、天井の振動を防ぐために、天井骨組などの補強が必要な場合があります。くわしくは建築・内装業者とご相談ください。
- 天井が既設の場合は、本体を吊り下げる前に、配管、配線接続位置まで、冷媒配管、ドレン配管、室内外連絡電線を施工しておいてください。

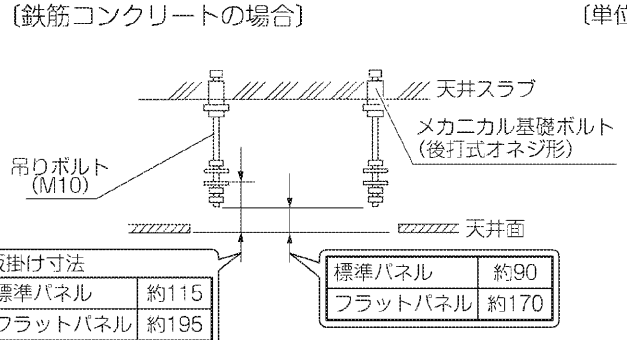
2 吊りボルトの設置

- 吊りボルトは、室内ユニット重量に耐えられるように取り付け、天井面までの長さをあらかじめ調整しておいてください。

[木造の場合]



[鉄筋コンクリートの場合]



(単位: mm)

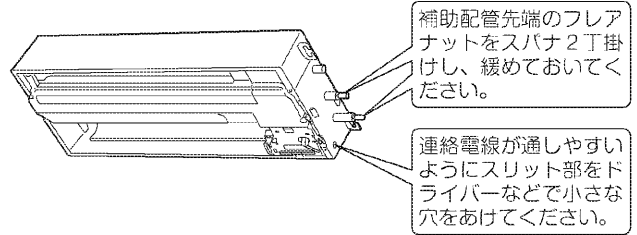
- エアコン設置完了後の寸法は、上記 1 ユニット寸法と天井開口 をご覧ください。

室内ユニットの据付け②

3 室内ユニットの据付け

室内ユニットの準備

- 配管および配線の接続を楽に行うために、室内ユニット吊り下げ前に右図の準備を行ってください。



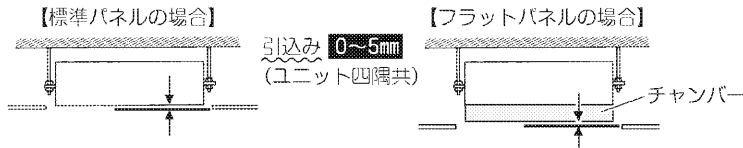
室内ユニットの設置

- ①吊り金具に吊りボルトを通します。(右下図)
- 設置のとき、①座金固定材を使用すると座金の落下が防止でき、作業しやすくなります。
- ②ユニット本体の高さの調節をします。

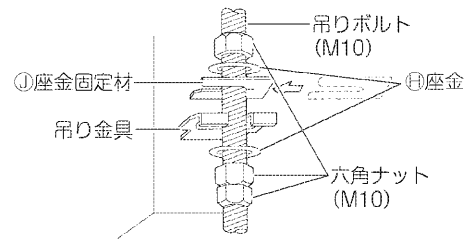
注意

引込み寸法は必ず守ってください。
本体の取付けを上げ過ぎると水平羽根中央部がパネル吹出口の前縁に乗り上げ、閉じない場合があります。

ユニット本体下部(ドレンパンなどの出っ張りを除く)と天井下面の位置



- ③ユニット本体が正しい位置にくるように調節します。
- ④ユニットの水平度を確認し、下側をダブルナットで固定します。
 - ユニットの水平度は、水準器で長手方向、短手方向の水平度を確認してください。
 - 本体を据え付けたときの傾きは0.5°以内 に抑えてください。
- ⑤上側のナットを締め付けます。

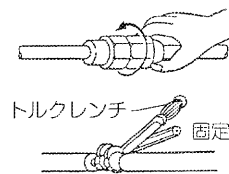


注)図に示す吊りボルト、六角ナットは現地調達品です。

本ユニットは、ドレンポンプ、フロートスイッチを内蔵していますので、決してユニット本体が0.5°を超えて傾くことがないようにしてください。特に、本体ユニットを長手方向に傾けて設置すると、フロートスイッチの誤作動をまねき水漏れなどの原因になります。

4 室内ユニット配管の接続

- 補助配管先端のフレアナットをスパナで2丁掛けし、外します。
- 接続時の締付トルクについてなど、詳しくは **【室外ユニットの据付け①】** 2 冷媒配管の接続 を参照してください。
- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。(曲げ半径は30~40mm以上)
- 室内外連絡配管を天井裏で曲げる場合は、なるべくゆるやかに曲げてください。急に曲げると、その部分で断熱材が圧縮され、結露することがあります。



警告

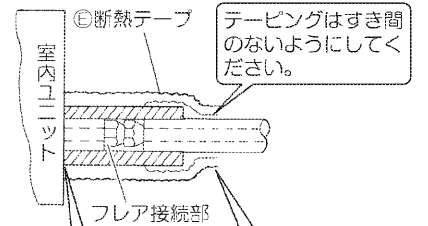
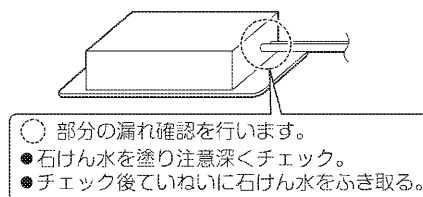
メタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、ウォールカバーとウォールパイプを必ず使用してください。発熱、感電、火災の原因になります。

注意

壁貫通穴とのすき間は必ずパテ埋めをしてください。水漏れの原因となります。

5 ガス漏れ確認

- ガス漏れ確認は、エアバージ後、行ってください。
- エアバージについては、**【室外ユニットの据付け②】** 3 エアバージとガス漏れ確認 を参照してください。

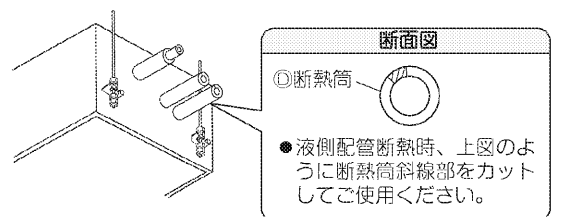


①断熱筒の端面と本体の間にすき間のないように取り付けてください。(すき間があると、結露水が滴下することがあります。)

②断熱テープは各々の巻付け部が半分以上重なるように巻き付けてください。

6 接続配管の仕上げ

- 仕上げは、5 ガス漏れ確認 後、行ってください。
- ①断熱筒を適当な長さに切断します。
- ②冷媒配管の接続部分を確実に断熱筒にてシールします。(断熱が不十分だと、結露滴下の原因となります。特に天井裏の雰囲気は、高温、多湿の場合が多いので、断熱は十分に行ってください。)
- ③断熱筒取付け後、テープですき間なくテーピングします。さらに断熱テープを巻き付けます。
- 梅雨時の新築物件、新築の鉄筋コンクリート建築、通気のない天井裏など天井内(壁内)相対湿度が80%を超えらると思われる場合は、断熱材の外表面に結露することがありますので、設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化してください。



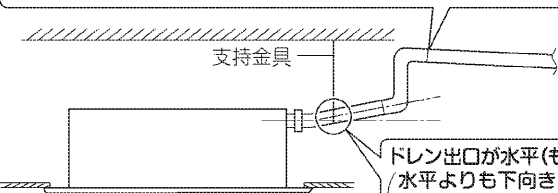
室内ユニットの据付け③

7 ドレン配管工事

ドレン配管の設置

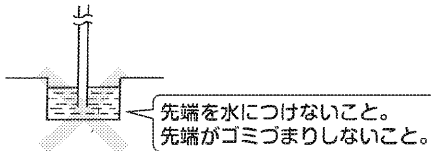
- ドレン工事は確実に排水するように配管してください。
- 配管は短く、 $1/100$ 以上の下り勾配をつけ、空気だまりのないようにしてください。
- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP20(外径26mm)を使用してください。
- ドレン出口が水平になるように支持金具などで支持してください。
- 屋内部のドレン配管は結露防止のため、肉厚10mm以上の断熱材で断熱してください。

ドレンホースは必ず下り勾配をつける。小さなトラップも不可。**下り勾配 1/100以上**
(流路抵抗が大きくなるため、排水が悪くなったり、ドレンポンプの音が大きくなる場合があります。)



ドレン出口が水平(もしくは上り勾配)になるように支持金具などで支持する。
(水平よりも下向きになると空気だまりができ、運転停止時にドレン水が逆流し、音が大きくなる場合があります。)

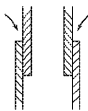
- ドレン配管の先端を水につけないようにしてください。
- 汚水槽の中へは、ドレン配管を入れないでください。



先端を水につけないこと。
先端がゴミつまりしないこと。

室内ユニットとの接続部

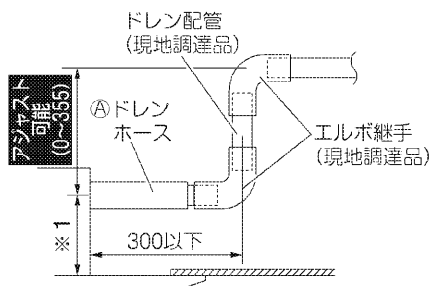
- 接着部には接着剤を流し込んで、完全に乾かしてください。



注意

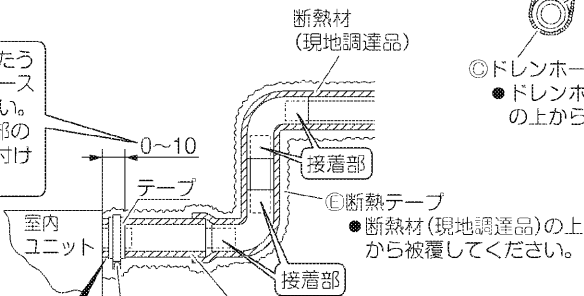
- 接着部は塩ビ系接着剤にて漏れのないように接着してください。
- 接着後にドレン配管の調整をする場合は、接着剤が完全に乾いてから行ってください。
- 室内ユニットとの接続部の断熱は ③ 室内ユニットの据付け 後、行ってください。
- ホースバンドは必ず使用して、しっかりと締め付けてください。
- 根元まで確実に断熱してください。
(断熱が不完全な場合、結露水が滴下することがあります。)

ドレンアップする場合



※3

- この間でテープ止めしたうえで、テープ位置にホースバンドを止めてください。
- ホースバンドはネジ部の最後まで確実に締め付けてください。

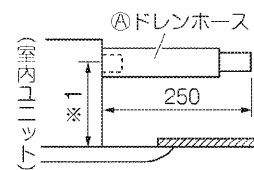


※4

室内ユニットとの接続部には接着剤を塗布しないでください。

③ ホースバンド ※2 ④ ドレンホース用断熱材

ドレンアップしない場合



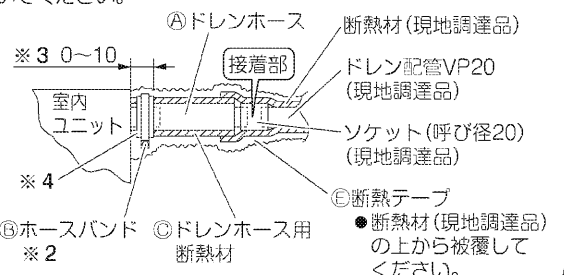
※2

(ホースバンド部の断熱)

断面図

③ ホースバンド

- ドレンホース用断熱材
- ドレンホースの断熱材の上から巻いてください。



③ ホースバンド ※2 ④ ドレンホース用断熱材

※1	標準パネル	145
	フラットパネル	225

室内ユニットの据付け④

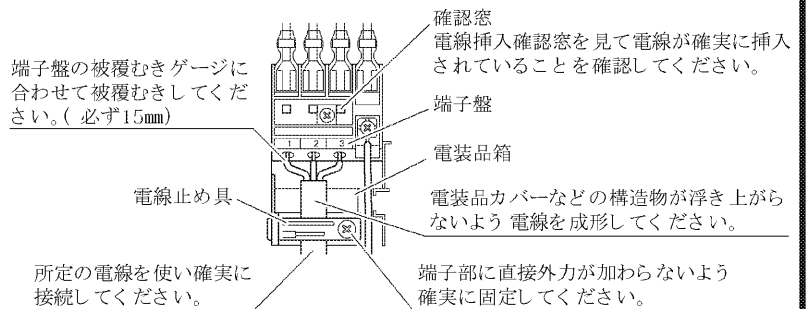
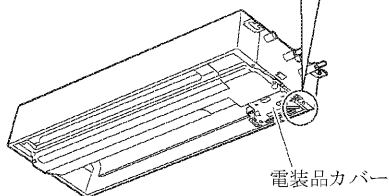
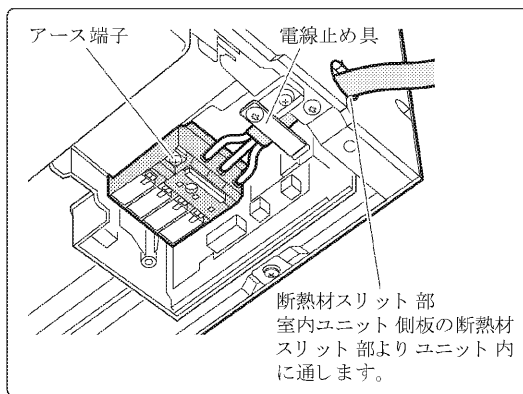
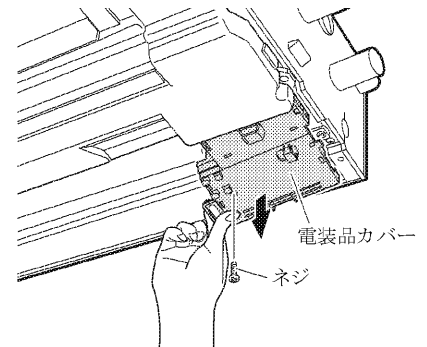
警告

- 据付工事は、必ず電源を切って行ってください。電源を入れたまま電気部品に触れると、感電の原因になります。
- 配線の途中接続、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしないでください。発熱、感電、火災の原因となります。
- 現地調達の電気部品を製品内に組み込まないでください。(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください。) 発熱・火災の原因になります。
- 設置場所によっては、漏電しゃ断器が必要です。漏電しゃ断器は通常タイプをご使用ください。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください。)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると、火災、感電の原因になります。

8 配線工事

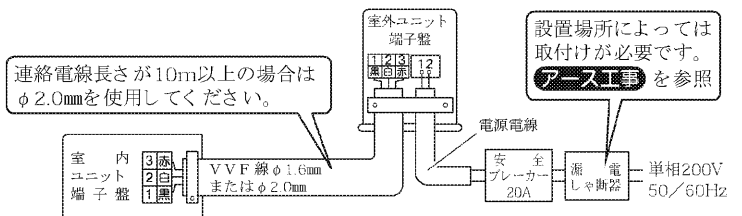
- ①電装品カバーを外します。(ネジ1本)
- ②連絡電線を室内ユニット断熱材スリット部から通します。
- ③電線の被覆むきを行います。(必ず15mm)
- ④電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込みます。
- ⑤確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめます。
- ⑥電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定します。
- ⑦電装品カバーを取り付けます。(ネジ1本)

(詳細は裏面の **HAシステムと接続する場合①** を参照してください。)



端子盤の被覆むきゲージに合わせて被覆むきしてください。(必ず15mm)

電装品カバーなどの構造物が浮き上がらないよう電線を成形してください。



連絡電線長さが10m以上の場合はφ2.0mmを使用してください。

VVF線φ1.6mm またはφ2.0mm

- 電源電線の最大こう長は表に合わせ、電気設備技術基準および内線規程に従って施工してください。

能力帯 (kW)	電源電線最大こう長 (m)	
	φ1.6mm	φ2.0mm
2.8	18	28
3.6	15	24
4.0~	10	17

● システムバック マルチの場合

マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

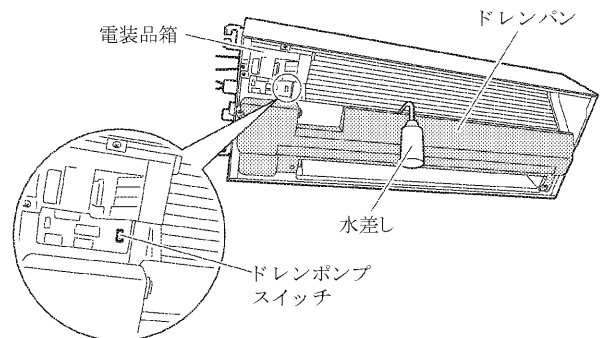
● ワイドセレクトマルチの場合

BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

9 ドレン排水チェック

配管施工後ドレンがスムーズに流れるか確認してください。

- ドレンパン内に水差し(現地調達品)を使って、約600cc(コップ3杯分)の水を徐々に入れてください。ドレンポンプスイッチを排水し終るまで押し続けて排水をチェックしてください。(配線工事ができていないときは、室内ユニット端子盤の①番、②番に単相200V電源を接続し、ドレン排水チェックを行ってください。)



10 化粧パネルの取付け

化粧パネルを取り付けるときに、吸込み側のシート(ダンボール製)を必ず外してください。

- 化粧パネルの取付けは別売品の化粧パネルに付属の据付説明書によって行ってください。

表示ランプと室内温度センサーとスイングモーター用のコネクターとおそうじユニット(※2)を確実に接続してください。

(※2)フラットパネル時のみ

室外ユニットの据付け①

- **システムバック・マルチの場合** マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合** BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

1 室外ユニットの据付け

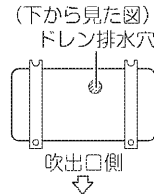
△注意

室外ユニットは、小動物(虫やカエルなど)のすみかになるような場所には設置しないでください。(例えば、落ち葉の多い所など)小動物が侵入し発煙・発火の原因になることがあります。
また、侵入することを減らすために「置台」を必ず使用し、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

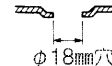
- 室外ユニットの据付けは、**据付場所の選定**、**室内外ユニット据付図**を参照してください。
- ドレン処理が必要な場合、下記要領でドレン工事を行ってください。

ドレン工事

- ドレン排水するときは、⑦ドレンソケットを使用してください。
- 排水穴が取付台や床面などに隠れる場合は、室外ユニットの脚下に厚さ30mm以上の間座を入れてください。
- 寒冷地では、室外ユニットのドレン排水は「タレ流し」にしてください。(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、暖房効果が損なわれることがあります。)



⑦ドレンソケットの取付け



底フレーム
⑦ドレンソケット
ホース
(市販品 内径16mm)

押しながら

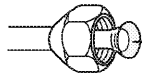
2 冷媒配管の接続

- 年数の経過によるフレアナットの腐食割れを防ぐため、フレアナットは本体付属のものをご使用ください。
- フレアナットの割れ防止およびガス漏れ防止のため、締付け時はトルクレンチをご使用ください。
- ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油を塗ってください。過剰な締付トルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。(冷凍機油はR410Aのものをご使用ください。)
- 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手まわして3~4回転ねじ込み、その後所定のトルクでしっかりと締め付けます。

フレアナット締付トルク	
ガス側(配管径 9.5mm) 32.7~39.9N・m (333~407kgf・cm)	液側(配管径 6.4mm) 14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm)
ガス側(配管径 12.7mm) 49.5~63.3N・m (505~615kgf・cm)	

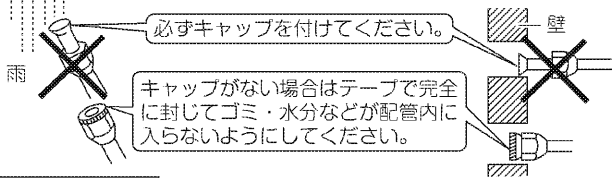
弁ふた締付トルク	
ガス側(配管径 9.5mm) 21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm)	液側(配管径 6.4mm) 21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm)
ガス側(配管径 12.7mm) 48.1~59.7N・m (490~610kgf・cm)	液側(配管径 6.4mm) 21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm)

サービスポート 締付トルク
10.8~14.7N・m (110~150kgf・cm)



冷媒配管工事について

- 配管内にゴミ・水分を入れないでください。
- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。



配管と断熱の選定

- 配管セット(別売品)をおすすめしますが、市販材料使用の場合は次のことを守ってください。

■市販の銅管使用の場合

仕様C1220T-O(JIS H3300) 付着油量40mg/10ml以下

■断熱材材質：発泡ポリエチレンフォーム

熱伝導率：0.041~0.052W/mK(0.035~0.045kcal/mh°C)
(ただし、ガス管は表面温度が最高110°Cになりますからそれに耐えるものを使用願います。)

- 液管、ガス管共必ず断熱してください。断熱寸法は下記に従ってください。

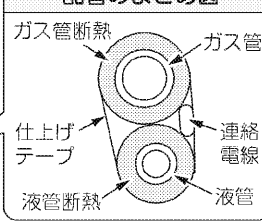
ガス管	液管	ガス管断熱	液管断熱
外径9.5mm(※1)	外径6.4mm	内径12~15mm(※3)	内径8~10mm
肉厚0.8mm	肉厚0.8mm	肉厚 1.0mm以上	肉厚 1.0mm以上
曲げ半径 30mm以上(※2)	曲げ半径 30mm以上	—	—

- 5.6kWクラスの場合…(※1)12.7mm、(※2)40mm以上、(※3)14~16mm

- ガス管、液管は分離し、各々別に断熱してください。

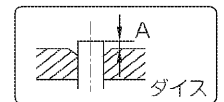
閉鎖弁の結露水が断熱材と配管のすき間から室内ユニット側に伝わるおそれがある場合は、断熱材端面をシールしてください。

配管のまとめ図



フレア加工について

- ①パイプカッターで配管を切断します。
- ②切粉や異物が配管内に入らないよう、切断面を下にしてバリ取りを行います。
- ③フレアナットを配管に挿入します。
- ④フレア加工を行います。

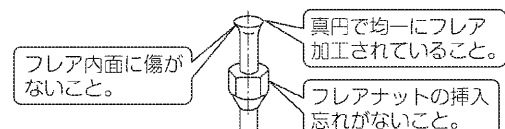


ダイスからの出しろを正しくセットすること。

切断面は正しく直角にバリ取りを行ってください。

	R410A用フレアツール	従来のフレアツール	
	クラッチ式	クラッチ式(リジット)	ウイングナット式(インベリアル)
A	0~0.5mm	1.0~1.5mm	1.5~2.0mm

- ⑤フレア加工が正しく出来ているかチェックします。



△警告

フレア加工は正しく確実に行ってください。不備があると冷媒ガスが漏れる原因になります。

(裏面につづく)

室外ユニットの据付け②

3 エアパーズとガス漏れ確認

警告

- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気をしてください。
- 冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させないでください。
- ガス漏れ確認を必ず行ってください。

地球環境保護の観点から、エアパーズは、真空ポンプをご使用ください。

- R410A専用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプターなど)を使ってください。
- 閉鎖弁の弁棒操作用に六角レンチ(対辺4mm)を用意してください。
- 冷媒配管の接続部はすべてトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付けてください。

①ガス閉鎖弁のサービスポートに、ゲージマニホールドのチャージホース突起側(虫ピンを押す側)を接続します。



②ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開、高圧側バルブ(Hi)を全閉にします。(高圧バルブは以降操作しません。)



③真空引きを行い、連成計が-0.1MPa(-76cmHg)になっていることを確認します。※1



④ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にし、真空ポンプを停止させます。(1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認します。)*2



⑤液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外します。



⑥液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行います。ガス漏れ確認は、室内ユニット側はフレア部周辺を、室外ユニット側はフレア部周辺、弁棒周辺を石けん水を塗布してチェックします。チェック後はていねいにふき取ります。



⑦ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全開にします。(弁棒は、あたりがある所で止め、それ以上回さないでください。)

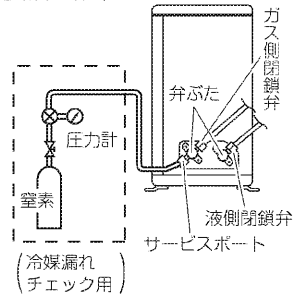


⑧液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付けます。

気密試験方法

気密試験を行う場合は、下記の要領で作業してください。

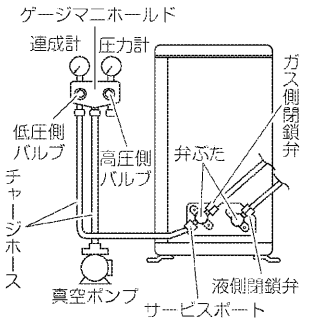
- 室外ユニット閉鎖弁は全閉のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認してください。気密試験は、高圧部の設計圧力まで昇圧して行ってください。(4.17MPa)
- 気密試験後は、真空ポンプを使用して窒素を回収してください。



※1 配管長と真空ポンプ運転時間

配管長	15m以内	15mを超える
運転時間	10分以上	15分以上

※2 連成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられます。各接続部の点検、およびナットを一旦ゆるめ締め直した後、再度②~④の操作を行ってください。



フロンについて



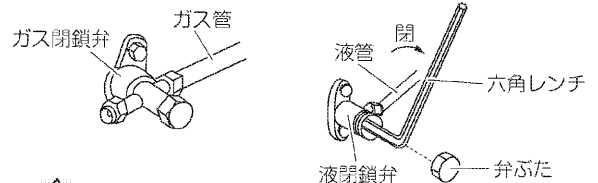
家庭用エアコンには最大でCO₂(温暖化ガス) 3,600kg(マルチシステムの場合は10,500kg)に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを、注意喚起するための表示です。

ポンプダウン運転について

- 地球環境保護の観点から、移設時にはポンプダウンを行い閉鎖弁をしっかりと閉めてください。
- フロン回収破壊法により、冷媒フロンの回収が必要です。廃却時にはフロン回収事業登録業者に依頼してください。

- ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外します。
- ②強制冷房運転を行います。
- ③5~10分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じます。
- ④2~3分後、ガス閉鎖弁を閉じて、強制冷房運転を停止します。



注意

圧縮機の故障の原因になりますので、ポンプダウンは必ず強制冷房運転で行ってください。液閉鎖弁を閉じた後、3分以内にガス閉鎖弁を閉じ、強制冷房運転を停止してください。

強制冷房運転のしかた

- ①室内ユニットの応急運転スイッチを5秒以上押し続けます。(「ピピッ」と鳴り、運転を開始します。)
- 強制冷房運転は約15分で終了し、自動的に停止します。強制的に運転を終了させたいときは室内ユニットの応急運転スイッチを押してください。

応急運転スイッチ

運転 タイマー

(イラストは標準パネルです。)

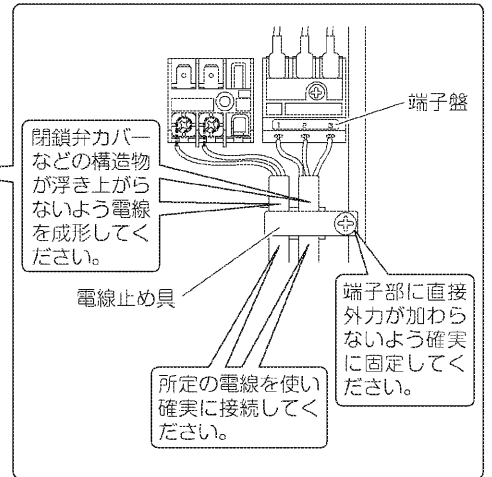
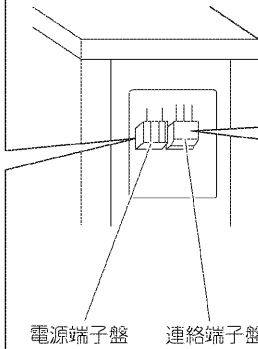
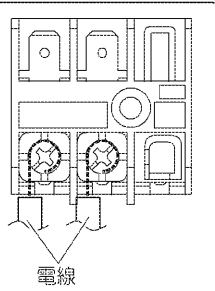
室外ユニットの据付け③

4 配線工事

●連絡電線の取付けは **室内ユニットの据付け④** 8 配線工事 に準じます。

電源端子盤に接続する場合は、端子盤のネジに、必ず右巻きで巻き付けてください。
 ●端子のネジはしっかり締め付けてください。
 ●端子盤への差込みかたは右図のようにしてください。
 ●端子部の被覆むきは下図を参照してください。

被覆むきはここまで被覆むきが長いと感電、漏電の原因になります。



●室外アース工事は、**アース工事** を参照してください。

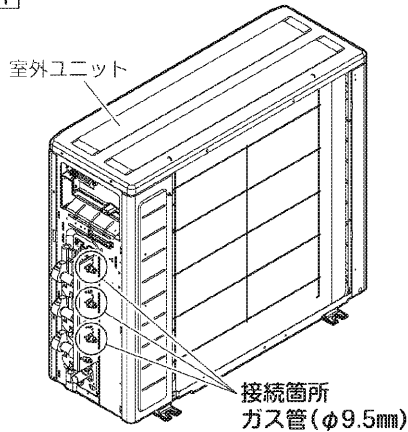
5 試運転

- 正しく据付け出来たか試運転を行い確認してください。
 - 確認項目をチェックしてください。
- 試運転と確認** を参照してください。

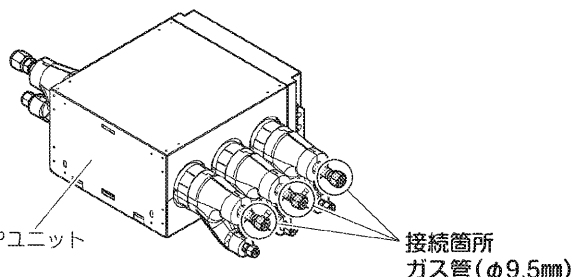
異径管継手の接続方法

マルチ、ワイドセレクトマルチの5.6kW機の場合のみ

接続箇所



(システムマルチの場合)
(イラストは3室用室外ユニット)



(ワイドセレクトマルチの場合)

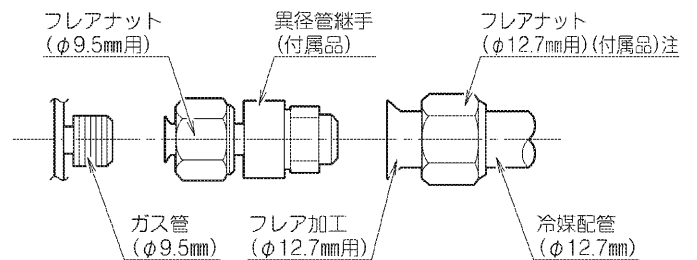
接続方法

手順1

①異径管継手に取り付けてあるフレアナット(φ12.7mm用)を外し冷媒配管に通した後、冷媒配管の先端をフレア加工(φ12.7mm用)してください。

手順2

室外ユニットのガス管と冷媒配管の間に①異径管継手を取り付けてください。
 フレアナットの締め付け時はトルクレンチを使用し、表1の規定トルク値で締め付けてください。



注)フレアナットは異径管継手と一緒に付いています。

表1

フレアナット締めトルク			
φ9.5mm用	32.7~39.9N・m (333~407kgf・cm)	φ12.7mm用	49.5~60.3N・m (505~615kgf・cm)

アース工事

警告

室内または室外ユニットのどちらか一方から、アース工事を行ってください。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合、感電や火災の原因になることがあります。

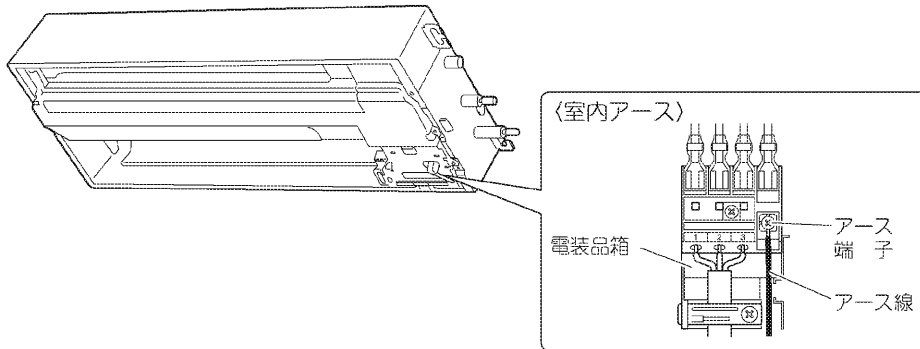
接地の基準

- 接地の基準は、電源電圧、設置場所により異なります。
下表に従って工事を行ってください。

電 源	設置場所	水気のある場所	湿気のある場所	乾燥した場所
	エアコン種類			
対地電圧が 150V以下	単相3線式200Vの機種	漏電しゃ断器を取り付け、さらにD種接地工事が必要。	D種接地工事が必要。	D種接地工事は法的には除外されていますが、安全のため接地工事をしてください。
対地電圧が 150Vを超える	3相200V機種および 単相2線式200Vの機種			

D種接地工事について

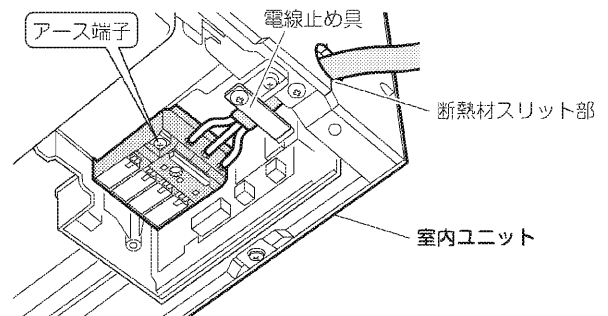
- 電気工事士の方が行ってください。
- 接地抵抗は必ず100Ω以下にしてください。ただし漏電しゃ断器(定格感度電流が100mA以下で動作時間が0.2秒以下の電流動作型のもの)を取り付ける場合は500Ω以下にしてください。



アース工事のしかた

■室内アースの場合

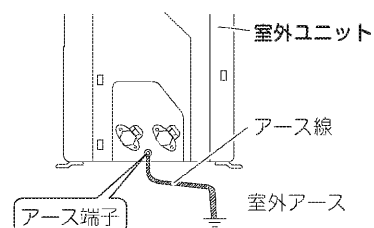
- ① 電装品カバーを外します。
- ② アース線を断熱材スリット部から通します。
- ③ アース線を固定します。



■室外アースの場合

- **システムバック・マルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

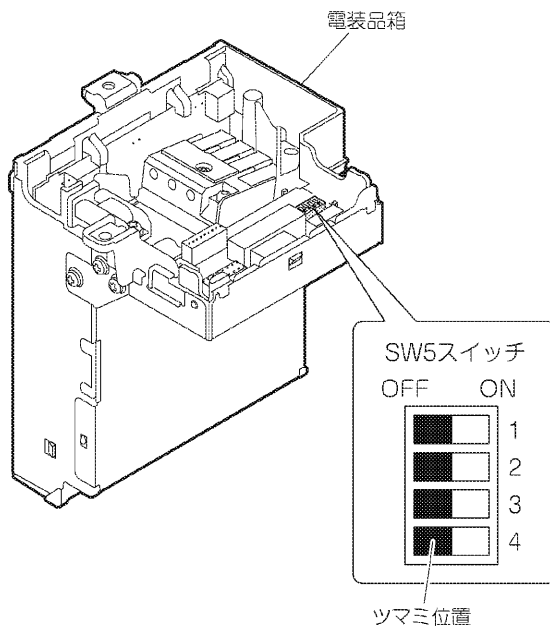
- ① 閉鎖弁カバーを外します。
- ② アース線をアース端子に接続します。



スイッチ設定方法と使いかた

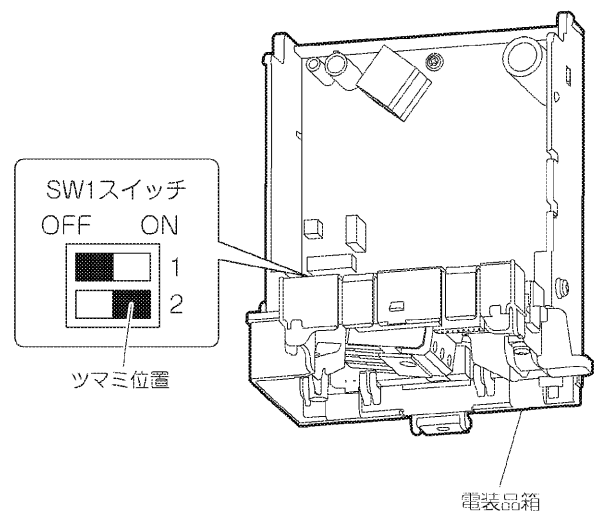
SW5スイッチ1～4

スイッチ番号	SW5-1	SW5-2	SW5-3	SW5-4
設定機能	アドレス	パネル	集中個別	高天井
ON側 ↓ OFF側	2 ↓ 1	フラット ↓ 標準	入 ↓ 切	入 ↓ 切
使いかた	同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合「2」にする。	化粧パネルがフラットパネルの場合は「フラット」にする。	DⅢ-NET接続時に「入」にする。通常は「切」にする。	天井高さが2.5～2.7mの部屋で暖房時の風量アップおよびフラットパネルの昇降高さをアップさせたい場合「入」にする。
出荷時の設定	「1」	「標準」	「切」	「切」



SW1スイッチ1～2

スイッチ番号	SW1-1	SW1-2
設定機能	リモコン切換	他室運転
ON側 ↓ OFF側	ワイヤード ↓ ワイヤレス	許可 ↓ 禁止
使いかた	薄形リモコンを接続する場合「ワイヤード」にする。	他室から自室の操作を禁止したい場合「禁止」にする。
出荷時の設定	「ワイヤレス」	「許可」



注意 他室運転の設定方法

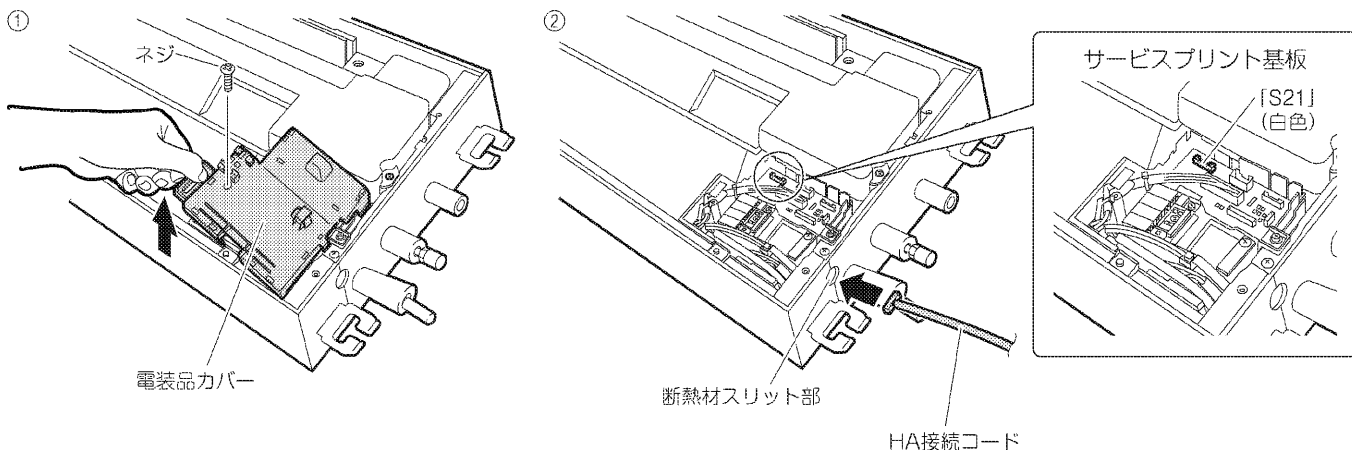
- 他室運転スイッチ(SW1-2)は、システムバック・マルチ用室内ユニット(他室運転機能つき)の場合のみ有効です。
- 他室運転「禁止」の設定はリモコンからでも行うことができますので、他室運転スイッチ(SW1-2)は通常「許可」のままにしておいてください。
尚、システムバックの場合は、リモコンからの設定はできません。

必要な
ときに

HAシステムと接続する場合①

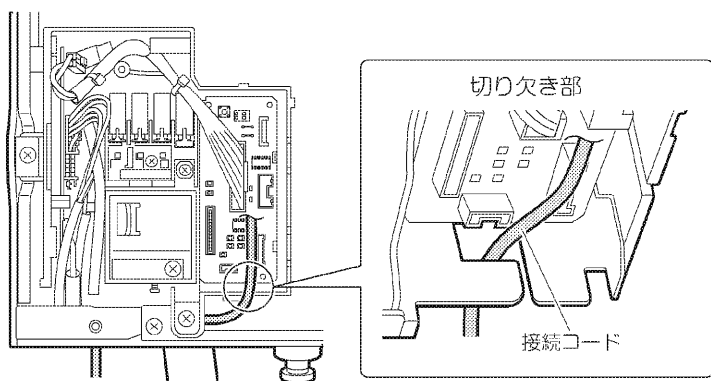
HAの場合

- ①電装品カバーを取り外します。(ネジ1本)
- ②接続コードを側板の断熱材スリット部よりユニット内に通し、サービスプリント基板上的のコンネクター「S21」(白色)に接続します。
- ③リモコン切換スイッチ(SW1-1)は「OFF:ワイヤレス」(工場出荷時のまま)です。
- ④接続コードの仕上げをします。

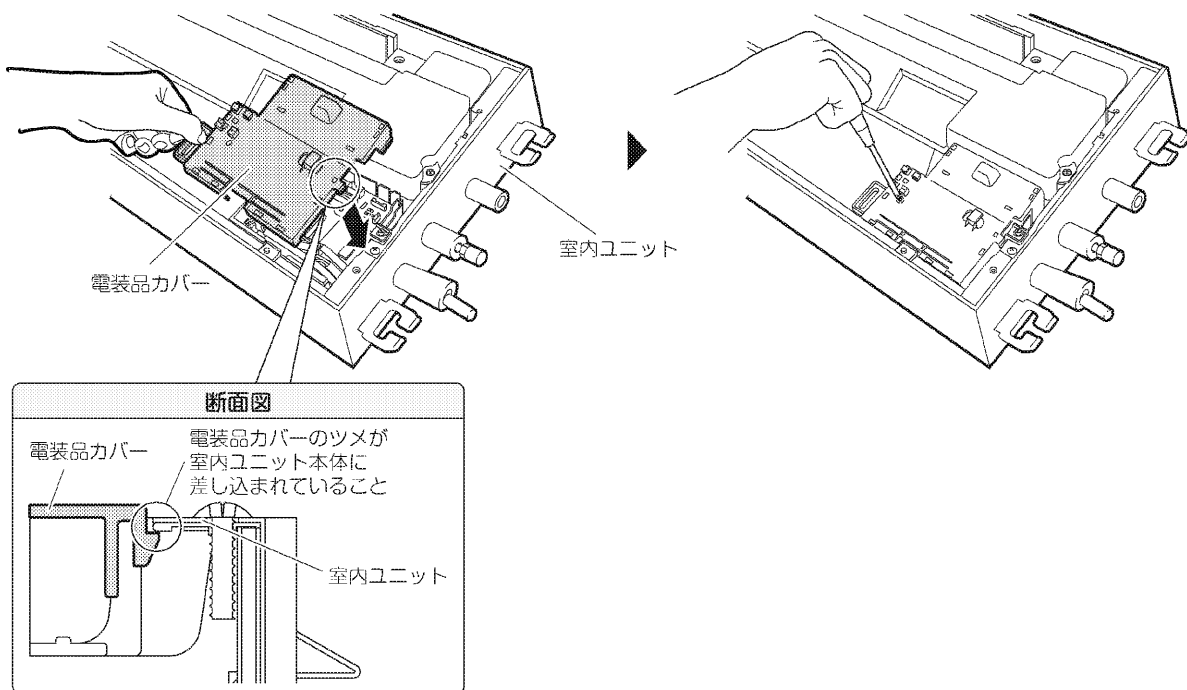


接続コードの仕上げ

- ①接続コードを電装品箱の切り欠き部に引き回します。



- ②電装品カバーを取り付けます。(ネジ1本)



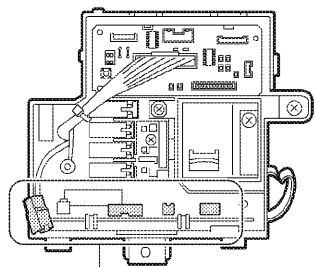
必要な
ときに

HAシステムと接続する場合②

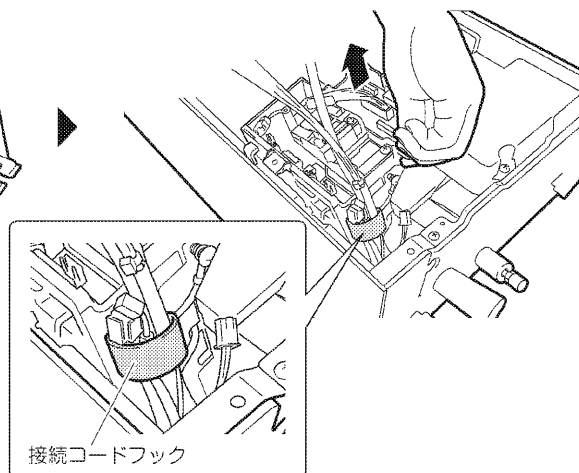
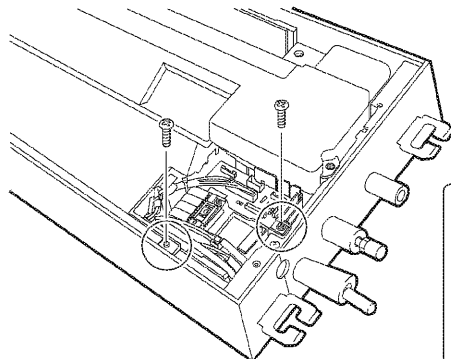
JEM-A規格対応HAの場合

- ①電装品カバーを取り外します。(HAの場合の①図参照)
- ②接続コード(4本)を電装品箱の各コネクターから取り外します。
- ③電装品箱を室内ユニットから取り外します。(ネジ2本)
接続コードフックから接続コードを取り外します。

〔電装品箱から取り外すコネクター〕



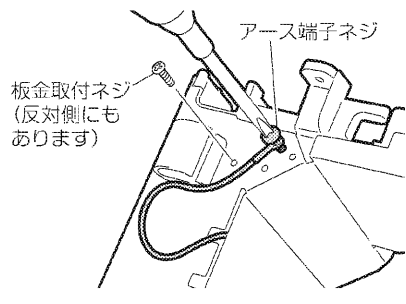
コネクター(4本)



接続コードフック

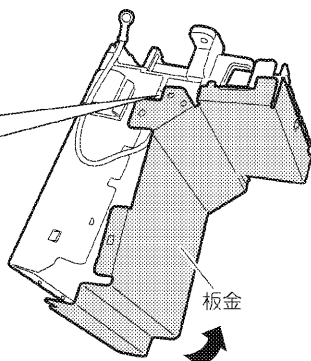
- ④電装品箱の板金を取り外します。(ツメ9カ所)
●アース端子ネジと板金取付ネジを外します。

アース端子ネジと板金取付ネジ



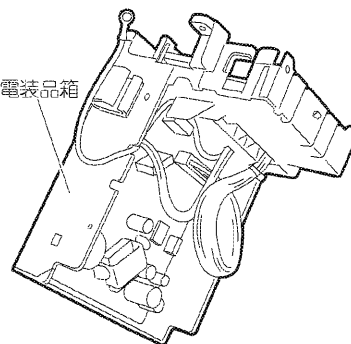
板金取付ネジ
(反対側にも
あります)

アース端子ネジ

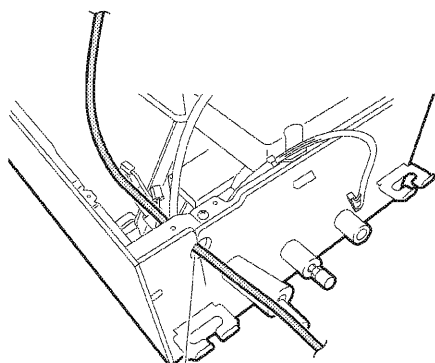


板金

電装品箱

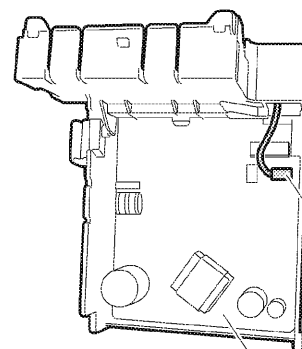
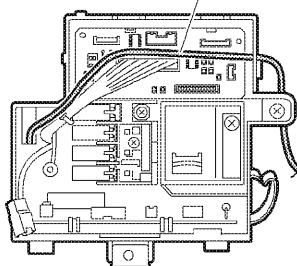


- ⑤接続コードを側板の断熱材スリット部よりユニット内に通し、メインプリント基板上的コネクター「S16」(青色)に接続します。



断熱材スリット部

HA接続コード



「S16」
(青色)

メインプリント基板

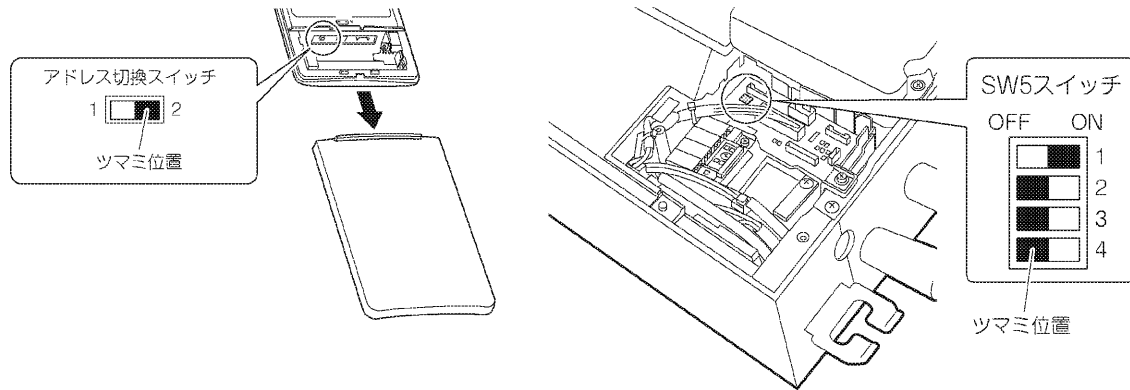
- ⑥リモコン切換スイッチ(SW1-1)は「OFF側：ワイヤレス」(工場出荷時のまま)です。
- ⑦電装品箱の板金をもともとおり取り付けます。
●アース端子ネジと板金取付ネジをもともとおり取り付けます。
- ⑧電装品箱を室内ユニットにもともとおり取り付けます。(ネジ2本)
- ⑨接続コードの仕上げをします。

必要な
ときに

同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合

同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを「2」に設定変更してください。

- ①リモコンのアドレス切換スイッチを「2」にします。
- ②室内ユニットのサービスプリント基板上にあるアドレススイッチ(SW5-1)を「ON側」にします。
- ③電装品カバーを取り付けます。(ネジ1本)

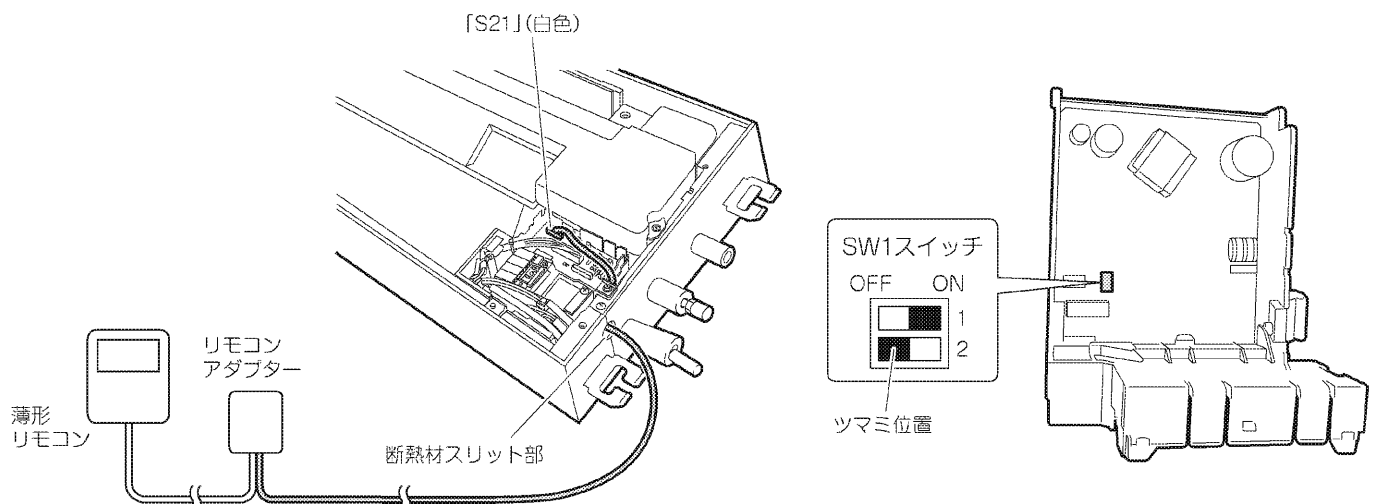


必要な
ときに

薄形リモコンを取り付ける場合

●薄形リモコン使用時には、ワイヤレスリモコンは使用できません。

- ① **HAシステムと接続する場合②** **JEM-A規格対応HAの場合** を参考に電装品箱と板金を取り外します。
- ②プリント基板上的リモコン切換スイッチ(SW1-1)を「ON側：ワイヤード」にします。
- ③接続コードを側板の断熱材スリット部よりユニット内に通し、サービスプリント基板上的コネクター「S21」に接続します。
- ④ **HAシステムと接続する場合①** **接続コードの仕上げ** を参考に接続コードを引き回します。



試運転と確認

- **システムバック・マルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
 - **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ①コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様どおりか確認します。
 - ②試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。冷房運転のときは設定温度のいちばん低い温度に、暖房運転のときはいちばん高い温度に合わせます。
 - 室内温度によっては冷房・暖房どちらか一方しか運転できないことがあります。
 - 試運転後には適切な温度に戻してください。(冷房の場合26～28℃、暖房の場合20～22℃)
 - 停止後約3分間は製品保護のため、次の運転を行いません。
 - ③取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認します。
 - ④アドレススイッチ、パネルスイッチ、集中個別スイッチ、高天井スイッチ、他室スイッチ(他室運転機能つきマルチ、バックのみ)およびリモコン切換スイッチの設定を確認します。
 - ⑤エアコンを運転しないときでもいくらか電力を消費しています。
据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、ムダな電力消費をさけるため、ブレーカーを切ってください。

リモコンでの試運転のしかた

- ①「運転/停止」ボタンを押します。(運転開始します。)
 - ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押します。
 - ③「運転切換」ボタンを2回押します。(7が表示され試運転モードになります。)
- 試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。

△注意

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスがけ時には、エアコンの運転を避けてください。作業終了後にエアコンを運転する場合は、十分に換気を行ってください。ワックスなどの成分がエアコン内部に付着し、水漏れの原因になります。

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目 チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

チェック項目	不良の場合
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられていますか。	落下・振動・騒音
<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行いましたか。(ガス管、液管、室内側のドレンホース)	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしましたか。	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認しましたか。	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)は出ませんか。	別売品ドレンホース用逆止弁使用
<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実に行いましたか。	漏電時危険
<input type="checkbox"/> 電線は仕様どおりですか。	運転不能・焼損
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込口、吹出口が障害物でふさがっていませんか。 <input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いていますか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> 化粧パネルからのリード線のコネクタは確実に接続されていますか。	運転不能
<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認しましたか。	運転不能
<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認しましたか。	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

- この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください。)